完成検査における市町村職員臨場の取組状況

2020.6 建設管理課

本取組の目的: 「品確法」における発注者支援の一環として、北海道建設部所管の工事検査に市町村等職員の臨場 を可能とし、検査技術などを習得してもらうことを目的として実施するもので、平成18年度より実施。

アンケート調査結果の概要

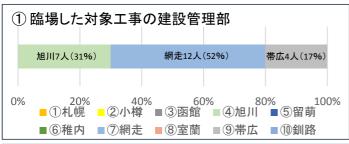
【実施状況】 令和元年度(2019年度)は、14市町村より23名が参加。(内、20名がアンケート回答)

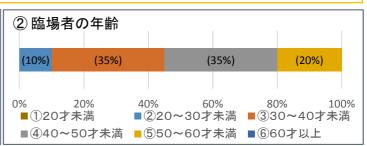
【検査に臨場した感想】 アンケート回答者全員が参考になったと回答。具体的には、検査時の着目点が最も多く、書類 検査及び現場検査の進め方が参考になったと回答。

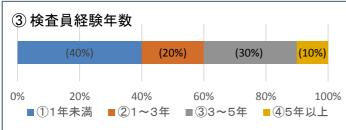
【道の検査との違い】 検査時間は同等との回答が8割を占めている一方、検査内容は道の方が充実しているとの回答が7割以上を占めた。具体的には同程度の時間の制約のもと、ポイントを踏まえ検査を行っている印象を受けた意見が多かった。

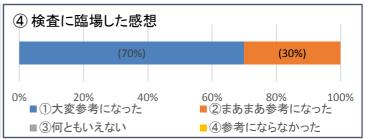
【取組方針】アンケートの結果より、他機関における検査状況を把握する機会の要望が多いことから、今後とも本取組を継続する。<u>建管へ要領の再周知</u>を行い、<u>市町村へ臨場制度の周知</u>を図っていく。

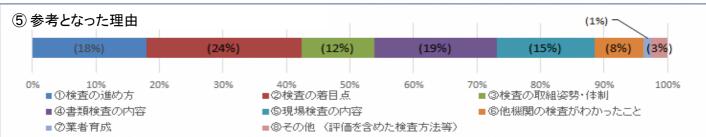
※①は検査に臨場した参加者数、②~⑩はアンケート回答による集計



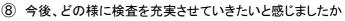




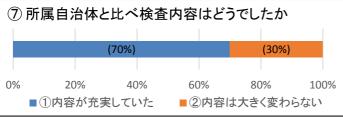




⑥ 所属自治体と比べ検査時間はどうでしたか(20%) (80%)0% 20% 40% 60% 80% 100%■ ①時間が長い ■ ②時間が短い ■ ③大きく変わらない



- 検査の着目点を充実させ、スムーズに進められるように心がける。
- すべての書類を確認する訳ではなく、着眼する項目を先に決めて、 その点を深く確認検査する。
- ・ 着眼点を重視した検査の取り組み。工事特性・創意工夫・社会性に関する実施状況報告書の提出の検討。
- ・受注者の受験体制、書類の完成度、社内検査の内容。



⑩ 検査臨場の要望や質問など

- ・ 事前に検定員から工事内容や検査項目の説明があったので、 検査 方法を想定でき、検査時の検定員の質問の目的や内容な ど理解できた。更に検査内容を充実できるように、今後も積極的 に参加したい。
- ・ 今回の検査で、町内の業者が作成する成果品との違いを多く 発見できました。今後は見やすい成果品を作成してもらえるよう 受注業者に指導していきたい。
- 検査員の横での臨場でわかりやすかった。
- ・ 町村においては必ずしも検査員が技術系ではないので、今後 も継続してほしい。
- 委託業務の臨場や橋梁の大規模補修の臨場ができれば参考にしたい。

